

日本鉄鋼協会記事

企 画 委 員 会

第2回委員会 開催日：4月15日。出席者：俵委員長他 17 名。

1. 第15回大河内賞受賞者決定報告

大河内記念技術賞に「シエルモールドー流気鑄造法による鑄造磁石ならびに大型鑄鋼品の生産技術の開発」住金中研鈴木和郎君ほか、が決定した旨報告がなされた。

2. 昭和44年度機械振興協会賞候補推薦の件
「直接通電加熱方式による連続亜鉛鍍金鋼の開発」(川鉄)を推薦することを決定。

3. 結晶成長国内会議協賛の件
協賛を決定。

4. 東大生研試験溶鋳炉第20次操業計画の件
操業計画案が企画委員会として決定。

編 集 委 員 会

第2回和文会誌分科会 開催日：4月9日。出席者：荒木主査他 17 名。

1. 論文審査報告

9 件の報告があり掲載可 5 件、修正依頼 4 件

2. 第77回大会よりの論文勧誘を座長感想メモに基づき検討することになった。

3. 委員推薦原稿について

技術資料類 21 件を依頼することになった。

第2回欧文会誌分科会 開催日：4月21日。出席者：橋口主査、他 13 名。

1. 原稿 3 件について審査報告がなされた。

2. 分科会委員から 3 件、第77回講演大会の座長メモより 3 件、計 6 件の論文の投稿を勧誘することになった。

3. 「鉄と鋼」の会告に掲載を依頼する「英文誌、Trans. ISIJ への投稿のおすすめ」を決定した。

4. 毎年 Trans. ISIJ 3 号に会長副会長の写真と経歴を掲載することになった。

昭和44年度第1回講演大会分科会 開催日：4月11日
出席者：草川主査、他 20 名。

1. 第78回大会についての報告

会期 10月11(土)～13日(月)、(14, 15日見学会)

会場 広島工業大学

2. 第77回大会における金属学会との連絡会についての報告

1) 第79回および第80回大会会場候補地を選定

2) プログラム編成に関しては今後両会代表者により協議していく。

3. 第77回大会反省

1) 会場 プロジェクターの設置場所に注意、喫煙禁止を徹底させる。

2) 講演 数式の多い講演がめだつたが、今後前もつ

て数式のたくさんいるものをチェックし協会で印刷して会場で配布することとした。

3) その他 座長についてなど。

4. 第78回大会討論会テーマ選定 (カッコ内は座長)

製鉄 高炉内における脱硫について (三本木貢治)

製鋼 鋼の凝固について (郡司 好喜)

性質 石油化学工業の高温高压反応装

置用材料の問題点 (長谷川正義)

〃 鉄鋼の格子欠陥 (橋口 隆吉)

〃 鋼中のバナジウムの影響 (今井勇之進)

5. 第78回大会特別講演テーマ選定

1) 海洋開発について (東京水産大学 佐々木忠義)

2) わが国古代文化と製鉄法

(題目、講演者、中国四国支部に検討依頼)

6. 講演募集要綱と概要集の執筆規程について、概要様式統一のため原稿用紙欄外に目的、方法、結果、考察などを書き入れるよう注意書きを入れることとした。

7. Trans. ISIJ に講演募集の記事を掲載することとなった。講演は英語に限定する。

8. 第78回大会講演申込締切は8月8日(金)

第79回は昭和44年1月23日(金)と決定。

昭和44年度第1回出版分科会 開催日：4月16日。出席者：佐藤主査、他 12 名。

1. 「鋼管マニュアル」刊行について

出版企画書を検討した後分科会において承認、5月の編集運営委員会に諮ることとなった。

2. 「鉄鋼製造法」について

前回で目次粗案の第1読会を終えこの段階で編集運営委員会に提出する。また「製造法」のための編集委員会を組織することとした。

共 同 研 究 会

鋼 板 部 会

第28回分塊分科会 開催日：4月24, 25日。出席者：荒木主査代理、他 90 名。

下記議題に従って開催された。

1. 共通議題

(1) 操業および作業時間調査表 (昭和43年12月, 44年1, 2月分)

(2) ホットスカーファーマの稼働状況と問題点

(H. S のない事業所は鋼片手入と精整設備について)

(3) 要員配置と省力化工事による合理化について

2. 自由議題

(1) 八幡堺より、「堺分塊工場による総合計算制御について」発表された。

(2) 八幡君津より君津の分塊工場設備概要について発表された。

3. 工場見学

2日目午後に富士製鉄室蘭製鉄所鋼片工場を見学した。

次回は秋に神戸製鋼所にて開催が決定された。

第73回圧延理論分科会 開催日：4月8、9日。出席者：岡本主査，他 53 名。

富士製鉄(株)名古屋製鉄所で開催された。第1日目は製鉄所内の大会議室で研究発表を行なった。熱間圧延(板の圧延)関係4件，熱間圧延(孔型圧延)関係8件，冷間圧延関係3件，製管関係1件，計16件の発表が行なわれ，活発に議論された。

第2日目の午前は，分塊，厚板，熱間圧延および冷間圧延を中心として工場見学をした。第2日目の午後は各社代表1名が集まり，小委員会を開き，「圧延理論と応用」の出版の進行状況と内容の打合せおよび今後の分科会の運営方針の打合せをおこなった。

原子力部会

第3回第小委員会 開催日：3月19日。出席者：松下委員長，他 18 名。

1. 経過報告

原子力部会ならびに他の小委員会の活動状況につき報告された。また従来の新技術開発部会は廃止され，その中の直接還元法分科会の検討内容はこの第2小委員会に継承されることとなった。

2. ワーキンググループの設置

原子炉に結合する製鉄プロセスの具体的検討を進めるため2つのワーキンググループすなわち

高炉製鉄ワーキンググループ(主査 小林正氏)

直接製鉄ワーキンググループ

(主査 瀬川清氏，副主査 田中稔氏)

の設置を決定した。

3. 技術報告

直接還元法分科会報告(44年3月改訂)ならびに原子炉多目的利用調査団報告について説明がなされた。

第4回第小委員会 開催日：4月23日。出席者：吹田委員長，他 25 名。

1. 高温原子炉調査報告

英国，西独，米国を主とするヘリウム冷却高温原子炉について文献調査による報告書が提出された。

これに基づき文献グループは解散された。

2. ワーキンググループの設置

製鉄用高温ガス炉の基本設計を検討するため，設計ワーキンググループを発足せしめることとなった。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第4回TC17/WG10分科会 開催日：4月4日，出席者：郷原主査，他 18 名。

1. 主査交替挨拶

清水主査が辞任し郷原主査に交替した。

2. 鋳鍛鋼の取扱い

鋳鍛鋼関係の副主査として野村氏を委嘱することとな

った。

3. 審議内容

(a) ISO/TC17/WG10 の June Meeting に対する出席準備と Japanese Comment について審議を行なった。

(b) ISO/TC17/WG10-SG-ETP の May Meeting への出席につき審議を行なった。

第5回 ISO 鉄鋼 WG10 分科会 開催日：4月24日
出席者：郷原主査，他 20 名。

1. 鋼板関係，鋼管関係，鋳鍛品関係についておのの Japanese comment 案の検討を行なった。

データシート部会

第4回部会 開催日：4月18日。出席者：田中部会長 他 12 名。

部会の今後の方針の検討

部会の下部組織である「質量効果を考慮したSC材の機械的性質」分科会のほうはデータが一応まとまったので今後いかなるテーマをとり上げていくかについて検討した結果

1. 圧力容器用鋼材の高温機械的性質

高温圧力容器用鋼材の高温機械的性質のデータがほとんどないのでデータシートの要望があり，クリープ委員会とも調整しどちらかで集収することとした。

2. 構造用鋼の質量効果を考慮した機械的性質

構造用鋼全般について設計基準を目的として鉄鋼協会マニュアルとしてまとめることとし具体的な進め方については分科会を設け検討することになった。

第29回普通鋼分科会 開催日：4月22日。出席者：山岡主査，他 17 名。

1. 報告事項

(1) 新規 JIS 原案の紹介

(a) 鉄鋼用語(試験)

(b) 鋼材の検査通則

(2) 低温貯槽の補完基準について

2. 審議事項

(1) JISG 3192 (H型钢) について

(2) 昭和44年度 JIS 計画について

(1)については再度打合せを開催しメーカー側の意見をまとめることとなった。

第3回線材分科会 開催日：3月6日。出席者：水内主査，他 14 名。

(1) 標準化委員会特殊鋼分科会において，特殊鋼鋼材規格分類体系の整備について，検討し，とりまとめたがその体系案に対して線材分科会としての意見をまとめその問題点を明確にし，特殊鋼分科会に答申する運びとなった。

(2) 線材関係 JIS 見直し要否の検討は工業技術院から検討依頼を受けたものである。軟鋼線材，硬鋼線材，ピアノ線材規格の見直し要否の検討に際し，まずアンケートにより意見集約を行なうことになった。そのアンケート方法については，幹事に一任した。

次回標準化委員会線材分科会は、4月9日に開催し、アンケートのとりまとめ結果につき討議することにした。

第4回線材分科会 開催日：4月9日。出席者：水内主査，他 18 名。

1. 線材関係JIS見直し要否の決定

工技院より線材関係JIS見直し要否の検討を依頼されていたが、アンケートにより意見を集約した。現JISの問題点として Cartom range, その他の元素, 標準寸法, 寸法公差, 表面欠陥などの検討と線材規格の分類法について討議した。

次回分科会で具体的結論を出す予定である。

2. 特殊鋼分科会に対する“特殊鋼鋼材規格分類体系”についての答申案の検討

特殊鋼分科会で原案作成した“特殊鋼鋼材規格分類体系”に対する線材分科会の意見をまとめ答申書を幹事より提出、一部修正のうえ承認した。

.....

第5回H形鋼ぐい鋼管ぐいJIS原案分科会

開催日：3月17日。出席者：大崎主査，他 21 名。

1. H型鋼ぐいJIS原案の検討

継手部の相対寸法許容差について討論がなされ、結局本条項は製造者と使用者の協議規定とすることになった。

2. 鋼管ぐいJIS原案の検討

寸法公差, 形状, 機械的性質の諸条項につき討議がなされた。

第6回H形鋼ぐい鋼管ぐいJIS原案分科会

開催日：4月8日。出席者：大崎主査，他 20 名。

1. H型鋼ぐいに関する審議

継手部の相対寸法許容差の表3を解説にのせる件は若干の修正ののち承認された。

2. 鋼管ぐいに関する審議

標準寸法, 目違い規定, 検査について討議したが結論は持ち越された。

第2回伸び値と試験片寸法効果分科会

開催日：4月3日。出席者：山岡主査，他 6 名。

第1回分科会の決定に従って神鋼, 八幡, 富士, 川鉄の各社の手持ちデータについて

$\epsilon - \sqrt{A/L}$, $\log \epsilon - \log \sqrt{A/L}$ にてグラフ化した資料が提出されそれらを検討した結果, 強度別に層別すれば $\log \epsilon - \log \sqrt{A/L}$ 表示で直線関係で表わせそうだと結論に達した。

そこで次回分科会(5月12日)までに下記の担当会社にて上記4社のデータを強度別に層別し $\log \epsilon - \log \sqrt{A/L}$ グラフに表わし検討することとした。

担当

板材 40 kg/mm ²	川鉄
50, 60 kg/mm ²	神鋼
棒材 40, 50, 60 kg/mm ²	八幡

第3回JISみがき棒鋼原案分科会 開催日：4月10日
出席者：中村主査，他 27 名。

1. みがき棒鋼用鋼材のJIS原案について

みがき棒鋼用鋼材原案分科会で作成したJIS原案について分科会幹事より説明が行なわれ、それについて各委

員より意見が述べられ、討論された。鋼材の種類は引張り強さで規定するが、引張り強さの範囲は保留することになった。また、製造可能寸法は原案どおりとすることとした。

2. 寸法について

現在みがき棒鋼の寸法は多種にわたっているので、整理してほしい旨みがき棒鋼メーカーより発言があり、みがき棒鋼メーカーの案の説明があつた。最終決定は次回以降に持ちこされた。

第6回原子力鋼材原案分科会 開催日：4月25日。出席者：長谷川主査，他18名。

1. 原子力用鋼板JISの下記の3規格原案につき本文ならびに審議経過説明書の内容を確定した。

- (1) (JIS G) 中・高温压力容器用炭素鋼鋼板
- (2) (JIS G) ボイラおよび压力容器用 Mn-Mo および Mn-Mo-Ni 鋼鋼板
- (3) (JIS G) 压力容器用調質型 Mn-Mo および Mn-Mn-Ni 鋼鋼板

2. 原子力用 Ni-Cr-Fe 合金管原案につき審議を継続した。

試験高炉委員会

第14回委員会 開催日：4月2日。出席者：辻畑委員長，他 16 名。

第19次操業報告と決算報告，第20次操業計画と予算案の審議を行なった。

(1) 試験高炉第19次操業報告

第19次操業報告書に従って東大生研より報告があり承認された。

(2) 使用後レンガの調査結果報告

報告の中でアルカリ、炭素沈積の影響は少なくスラグ侵食が主であることがわかった。

(3) 第20次操業計画案およびその基礎実験について東大研より第20次操業計画案とその基礎実験の計画案が提出され、討議の上承認された。

(4) 第19次決算報告と第20次予算案について

第19次操業の決算報告と第20次予算案を提出し承認された。

(5) 今後の進め方について

鉄連鉄鉄部会が4月15日に開催される予定であり第19次操業報告と第20次計画案が審議される予定である。

強度と靱性部会

第4回部会 開催日：4月21日。出席者：荒木部会長 他 10 名。

1. 文部省科学研究費特定研究費の申し込みについて昨年と同様のテーマで申し込むことになった。

2. 研究調査結果の発表および討議

(i) 含クロムマルエージング鋼の時効挙動およびミクロサブストラクチャー 東大 荒木 透

(ii) 低合金高張力鋼の引張破面、疲労破面の電顕観察 東大 荒木 透

(iii) 鋼の破壊靱性に関する2, 3の文献紹介 東工大 田中 実

(iv) 焼きもどしマルテンサイトの微視組織と脆性 八幡 井上